

# ああこのよろこび

## ■ 楽曲データ

歌詞：土岐善麿 作詞

楽曲：平井康三郎 作曲

発表：全日本仏教会 1955年

初演：「釈尊2500年を讃える会」

初出：—

管理番号：M1756

## ■ 創作の経緯

釈尊生誕2500年を迎えるにあたり、《いかなる日にも》とともに発表。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『佛教讃歌』 大谷派教学局 1956年

校訂の詳細：特になし

## ■ 解説

歌が生まれるきっかけのひとつに、「今、この場所に集（つど）ったもの皆で、声を合わせて歌いたい」という思いがあります。歌には、絆を深めたり再確認する力があるのです。《真宗宗歌》や《恩徳讃》など、私たちになじみ深いこれらの作品は、真宗門徒の思いに沿って創られ、今や、法要やご法座などの集いには欠かせないものとなりました。同じように、仏教徒の歌として書かれたのが、《ああこのよろこび》という仏教讃歌です。

1955（昭和30）年、前年に結成された全日本仏教会（お釈迦さまの説かれた「和」の精神に基づき、広く社会に向けて仏教文化の宣揚と世界平和に寄与することを目的とする団体）により発表されました。さまざまな集いの折のレパートリーとして、親しんでいただきたい一曲です。

## ◆ 楽曲について

当時の新聞記事によれば、歌人・国文学者の土岐善麿（1885～1980、真宗大谷派寺院の出身）に詞が委嘱され、数名の作曲家による作品を審査した結果、平井康三郎（1910～2002、《衆会》《咲き匂う》などの作曲者）のものが選ばれました。発表会の模様はNHKテレビでも放映された他、レコードも発売されました。

作詞の土岐は、仏教の教えとともに生きる喜びを、明快に謳いあげました。豊

かな自然に、信仰の歡びに満たされた姿を重ね合わせた1番、仏教徒の繋がり  
を呼びかける2番、そして仏さまのお徳を讃え、感謝する締めくくりの部分と  
いう構成になっています。

#### ◆演奏のヒント

5～26小節目が1番・2番、27小節目以降が締めくくりのフレーズです。レ  
ガート（なめらかに歌う）のフレーズと、付点やスタッカートを用いたリズム  
カルな部分が交互に出てくるので、メリハリよく歌いましょう。

楽譜に記された「莊重に しかし明るく」という指示を活かすためにも、響き  
の豊かな声を目指してください。特に締めくくりの部分は、高揚する気持ちを  
メロディーにのせて、晴れ晴れと歌いましょう。

#### ◆楽譜・音源について

伴奏譜は、『聖歌・讃歌集』第4巻（本願寺出版社より刊行）に掲載されてい  
ます。

また、全日本仏教会ウェブサイトで、SPレコードの音源を聴くことができま  
す。<http://www.jbf.ne.jp/interest/song.html>

解説執筆：山口篤子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第238  
号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.